

海外安全対策情報（バーレーン：2015年7月～9月）

1 社会・治安情勢

現在の治安情勢は概ね落ち着いており、治安の急激な悪化等が懸念されるような状況ではない。また、一般犯罪も少なく、全体としてみれば治安の良い国と考えられる。しかし、7月、8月と警察官を狙った爆弾テロが発生し、死傷者が出ていることから、これらのテロに巻き込まれないよう十分注意する必要がある。

【シーア過激派】

しかし、一部の過激化した若者達による暴力的活動は継続しており、一般人が巻き込まれることは少ないにしても、治安部隊との衝突も散発していることから、引き続きこの種の事案に対する警戒は必要である。

他方、昨年12月28日に各種法令違反の容疑で勾留されたアリ・サルマン・ウィファーク代表の判決を不服とする反政府グループによるデモ活動も各地で継続していることから、引き続き留意する必要がある。

【ISIL・ダーイッシュ関係】

また、5月22日、29日のサウジアラビア、6月26日のクウェートにおいて、シーア派モスクを狙った爆弾テロ事件が発生したことにより、バーレーン治安当局は、国内の全てのモスクについて、警察官を配置、入場者のチェック、礼拝終了ごとのモスクの閉鎖、監視カメラの設置、モスクの自主警備の許可、及び警備・救護訓練の実施等の警戒強化を実施している。

なお、6月28日の現地報道によれば、ISILのバーレーン人幹部が「次の金曜日（7月3日）にバーレーンで、クウェートの様なテロが起こる」との声明を発したが、同組織によるテロの発生はなし。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 基本的に一般犯罪は少なく、在留邦人が被害に遭うことは非常にまれであるが、殺人、強盗、強姦といった凶悪犯罪の発生は確認されていることから、最小限の防衛行動に心掛ける必要がある。

(2) 邦人被害事案

なし

3 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 7月1日午前2時頃、ジッドハフズ(※バーレーン島北部)にある「アイン・アル・ダール・モスク(シーア派住民の集落内の小規模なモスク)」において、ISILが使用する旗を印刷したビラが、モスクの壁に貼られたり、ばらまかかれているのが発見された。

(2) 7月1日午前10時頃、イーサ・タウン(※バーレーン島中央部)のスーパーマーケット「Lebanese Trade Centre」において、客が店外の買物カートの手すりに、携帯電話程の大きさの長方形の不審物件がテープで固定されているのを発見、店員が警察に通報した。不審物件は、警察の処理によって処理され、被害なし。

(3) 7月15日、内務省はバーレーンに向かっていた船から、爆発物及び銃器等を押収した。押収品は、C4爆薬約43.8kg、カラシニコフ自動小銃8丁、弾倉32個、銃弾、信管等。容疑者は、渡航、資金等を支援しているイランに逃亡中のバーレーン人からリクルートされたこと、イランで爆発物製造及び使用、銃器の取扱いを含む軍事訓練をイラン革命防衛隊から受けていたこと、そして武器密輸計画の支援を受けていたことを供述している。

(4) 7月15日午前3時23分、東エクル地区(※バーレーン島東部)で、テロ容疑者(18歳)が爆発物を仕掛けようとして、誤爆し、死亡している発見された。

(5) 7月18日午前1時頃、カラーナ地区(※バーレーン島北部)で、警察官を狙い、爆発物を爆発させた事件が発生したが、負傷者なし。

(6) 7月19日午後2時47分、西エクル地区(※バーレーン島東部)で、警察官を狙い、爆発物を爆発させた事件が発生し、警察官1名が軽傷。アシュタル旅団がソーシャルメディア上に犯行声明を出した。

(7) 7月28日午前6時29分、シトラ地区(※バーレーン島東部)で爆弾テロがあり、警察官2名が死亡、6名が負傷した。「サラヤ・ワアド・アッラー(神の約束旅団の意)」と名乗る組織が犯行声明を出した。事件の態様から、本件犯行に使用された爆発物は、7月15日、捜査当局により、イランから密輸しようとして船から押収された爆発物と類似しており、イランとの関連が取りざたされている。

(8) 8月21日夜、ムハツラク地区（バーレーン島北東部）のターリク・ビン・ズィヤード男子中学校（バーレーン空港から南へ約1.5 km）付近で爆発事件が発生した。負傷者なし。建築物等への被害なし。

(9) 8月24日午後10時頃、ムハツラク地区のアブドッラフマン・アル・ナーセル・スクール（バーレーン空港から南へ約2.7 km）付近で爆発事件が発生した。負傷者なし。建築物等への被害なし。

(10) 8月28日、カラーナ地区（※バーレーン島北部に位置するシーア派住民集住地区）で爆弾テロが発生し、勤務中の警察官1名が死亡、6名が負傷（警察官3名及び民間人3名）した。容疑者数名が逮捕され、また同事件で使用された爆発物は、7月15日、捜査当局により、イランから密輸しようとして船から押収された爆発物と同種類の高性能爆薬が使用されていた。

(11) 8月29日午後8時30分頃、サール地区（※バーレーン島北西部）のサール・モスク（スンニ派）前で、手製爆発物が発見されたが、警察爆発物処理隊により安全に処理された。

(12) 9月10日夜、ハミース地区（※バーレーン島北部）のハミース警察署を狙った爆弾テロが発生したが、死傷者等なし。

(13) 9月13日朝、サルマバード地区（※バーレーン島北部）、ディラズ地区（※バーレーン島北西部）、ジッドハフズ地区（※バーレーン島北部）のそれぞれハイウェイ上の3ヶ所で、爆発物様の不審物件が発見され、警察により処理されたが、全て偽物であった。警察による交通規制のため、午前6時頃から午前9時頃までの間、広範囲にわたり交通が停滞し、大きな影響が出た。

(14) 9月30日、ヌエイドラート地区（※バーレーン島東部）において、C4、RDX、TNT等の爆発物約1.5トン及び銃器等が警察により押収された。爆発物を製造・保管していたとして逮捕された数名の容疑者は、イラン革命防衛隊やヒズボラと強いつながりがあるとみられている。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

日本人の被害は報告されていない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

シーア派地区に立ち入らないこと、またテロの対象となり得るモスク等宗教関連施設や警戒中の警察官、警察車両には近付かないことを徹底するとともに、不特定多数の人々が集まる施設（レストラン、ショッピングモール、ホテル、観光施設、市場等）を訪れる際には、周囲の状況に注意を払い、不審な状況を察知したら、直ちにその場を離れるなど安全確保に十分注意する必要がある。

また2011年の大規模騒擾事案を念頭に、社会・治安情勢が急激に悪化した場合の対応について、体制を構築しておく必要がある。特に、大使館との連絡手段の確保（緊急連絡網、デモ情報、無線機、FMラジオ等）、緊急時の国外退避方途について、日頃から準備と確認をしておくことが重要である。

以 上